

令和2年2月6日（木）
にぎたつ会館

埋蔵文化財担当職員等講習会の閉会に当たりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

まずは会場にお越しの皆様におかれましては、長時間にわたりましてご参加いただき、本当にお疲れ様でございました。

また、講師の方々におかれましては、遠路はるばるお出でいただき、貴重なご講演・ご報告を賜りましたこと、改めまして心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、皆様ご承知のとおり、「文化財」は、地域の歴史そのものであり、地域住民にとりましては、その地域のシンボルといえるものです。ここ最近では、こうした文化財の保存と活用は、地域づくり、また人づくりにもなるという認識のもと、全国各地の自治体におきまして、個性的で、かつ魅力的な活用事業が進められているのではないかと思います。こうした文化財の持つ本質的価値を適切に把握し、活用していく上で根幹と成すものが、シンポジウムのテーマでもありました「地域研究」であるといえます。

そこで本日は、国や地方公共団体における取り組みの現状やその課題についてご報告をいただきました。改めて専門職員による専門性を活かした「地域研究」の重要性や必要性を強く認識していただくと同時に、今後の保存・活用を進めていく上で、多くのヒントをいただけたのではないのでしょうか。

また、昨日は文化庁より、埋蔵文化財防災のご報告もありましたが、平成29年以降でも、平成29年7月の九州北部豪雨や、平成30年6月大阪北部を震源とする地震、平成30年7月豪雨、令和元年の台風15号・19号といった災害を思い出しますが、本県に関しましても、平成30年7月豪雨では、県史跡や文化的景観など、文化財48件とその関連施設が被災いたしました。今後、災害から地域を守るということに、地域全体で立ち向かわなければなりません。この「地域を守る」という中には、人・生活・産業、そして「文化」があり、その一員には、文化財専門職員も立つことになるかと思えます。こうした面などからも、文化財専門職員が担う役割は、年々大きくなっていくものと考えられますが、決して孤立することなく、「国」と「地域」、そして「地域」と「地域」が強固なスクラムを組み、立ち向かうことが必要と考えます。

それでは最後に、今回の研修で得られた知見を、それぞれの地域に持ち帰っていただき、これからの埋蔵文化財保護行政に活かして頂けることを、そして本講習会が、今後も継続的に発展していくことを切に願いまして、甚だ簡単ではございますが、閉

会のご挨拶とさせていただきます。この両日、誠にありがとうございました。